

出題分析			
試験時間	80 分	配点	150 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問数は昨年に続き 4 題であったが、小問総数 41 問、うち論述数 13 問 (23 行) で、設問数は微増、論述行数は 1 行減った。I で日本史と共通のリード文が使用されることはすでに定着しているが、IV 全体が日本史と共通している点も昨年を踏襲しており、日本史との共通問題も 3 問出題された。地図問題が増えた一方でグラフ問題は減少し、資料読解問題については、文字資料に加えて、近年では珍しい図像を用いた問題が出題された。また、昨年に登場した考察の背景を問う問題はなくなった。地図問題は細かい内容も問われたが、グラフ問題の読み取りや論述問題は全体的に取り組みやすく、難易度はやや易化したと思われる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	関税の世界史	問 1 は日本史との共通問題。公民で問われるような内容だが、経済学部受験生であれば基本知識の範疇としたい。問 3, 香港について、時事的内容も含めて問われた。鄧小平以降の中国指導者も整理しておこう。問 4, 問われているのは 3 のザール地方。ドイツ領内の選択肢までは絞り込みたい。なお、4 はラインラントである。問 5 a, シェンゲン協定の発効は 1995 年だが、教科書や用語集には記載がなく、整序を正確に判断することは難しい。	標準
II	スペインによるアメリカ植民地支配	問 7 ③, 社会主義運動としてナロードニキ運動を想起できるかがポイントであった。問 10 ①, アの正解は 5 のモンリオール。モンリオールが位置するケベックは 17 世紀に形成されたが、1 のニューオーリンズが位置するルイジアナも 17 世紀に形成されている。1 と 5 の違いを正確に判別するには、ニューオーリンズが 18 世紀に建設されたことを知らなければならないが、これは高校世界史の範囲外といえる。	標準

設問別講評			
III	ベトナム戦争	問 12①, 3 をウィルソンとする材料は乏しいが、消去法で対応できる。問 13②, ①を手掛かりに、もしくはアメリカからのイランの武器輸入額が 0 になる年から、大まかな年代を判断できる。問 14, 具体的地名が分からなくても、アが西部戦線の戦場、イがエチオピア侵攻に関する場所であると推察できる。ウのアウシュヴィッツがポーランドに位置することは押さえておきたい。	やや易
IV	慶應みらい君の探究型学習	昨年に続いて慶應みらい君の登場である。みらい君の思考の道筋を考察する形式も昨年を踏襲していた。問 15, 資料 a から 1936 年段階で日本が「工業国への躍進を示している」こと、第 2・3 図から輸出入における「全製品」と「原料品」の割合が推移していることを読み取りたい。「全製品」の意味も注から確認できる。問 16, 資料 b が示す「1933 年」に先行して円安が進行していることを読み取り、輸出品の価格低下と、輸出増加に関連付ける発想が問われた。円安をもたらした「日本政府の政策」として金輸出再禁止に触れることは、世界史選択者にはやや難しかった。問 1 でも為替変動と輸出入との関係が問われており、慶應経済が学生に求める能力について、メッセージがこめられていたように思える。	標準

合格のための学習法

慶應大の経済学部は出題が「1500 年以降を中心」と明示している点や、資料（グラフ・表・史料文など）を多用する点で極めて特徴的である。それだけにかえて傾向をつかんだ対策はとりやすい。小論述問題対策として教科書を読み込み、資料問題対策として資料集を読み込んでおくとういだろう。また、問題文に論述の方針が具体的に示される傾向が強いので、題意に沿った解答を作成する意識を持ちたい。記号選択問題では、時代の流れから年号を推測する練習を積んでおこう。また「歴史総合」も積極的に出題する傾向があるので、日本史との関連事項や思考力系の問題についても、より意識的に対策したい。